

平成25年度 第3回 泡瀬地区環境利用学習推進連絡会を、平成26年2月3日(月)に沖縄市役所にて行いました。

<出席者名簿>

平成25年度 泡瀬地区環境利用学習推進連絡会委員名簿(敬称略)

区分	名称・氏名	備考
学識経験者	沖縄自然環境ファンクラブ	
学識経験者	沖縄国際大学非常勤講師 佐藤寛之	
学識経験者	琉球大学大学教育センター非常勤講師 NPO 法人 海の自然史研究所 代表理事 藤田喜久	
地域団体	社団法人沖縄県建築士会沖縄市支部	
地域団体	泡瀬復興期成会	
地域団体	公益財団法人沖縄こどもの国	
行政	沖縄市教育委員会 指導部 市立教育研究所	オブザーバー
行政	沖縄市教育委員会 教育部 市立郷土博物館	オブザーバー 欠席
行政	沖縄市 市民部 環境課	オブザーバー
行政	沖縄市 建設部 東部海浜開発局	事務局

泡瀬地区環境利用学習推進連絡会会則

(総則)

第1条 本連絡会は、泡瀬地区環境利用学習推進連絡会と称する。

(目的)

第2条 泡瀬地区における環境学習を継続・発展させるために、関係する機関・団体等で定期的な会議を持ち、情報や人材等の相互提供できるような連携体制を築くことを目的とする。

(構成)

第3条 本連絡会は、基本的に泡瀬地区における環境利用学習に関係する次に掲げる者のうちから市長が委嘱し、又は任命・依頼する。

(1) 学識経験者

(2) 地域団体

(3) 行政

(4) その他市長が必要と認める者

2 本連絡会を構成する学識経験者や機関・団体等は、必要に応じて承認を得て追加できるものとする。

(活動内容)

第4条 本連絡会の目的を達成させるために次のことを行う。

(1) 環境利用学習の啓発及び実践促進

(2) 環境利用学習プログラムの利用促進

(3) 環境利用学習運営の検討

(4) その他本会の目的達成に必要な事項

(会議及び運営)

第5条 会議は、必要に応じて開催するものとする。

2 会議の進行役は、沖縄市東部海浜開発局計画調整課長とする。

3 計画調整課長は、会議を招集するものとする。

4 沖縄市東部海浜開発局計画調整課は本連絡会の学識経験者や機関・団体等と連携して、本連絡会の運営を行う。

附 則(平成21年7月28日決裁)

この会則は、平成21年7月28日から施行する。

<会次第（第3回）>

平成25年度 第3回 泡瀬地区環境利用学習推進連絡会 会 次 第

日時：平成26年 2月3日（月）10：00～12：00

場所：沖縄市役所 5階 建設部会議室

- (1) 開会
- (2) 前回のまとめ〔教材案（紙芝居）〕
- (3) 来年度の活動予定
- (4) その他
- (5) 閉会

※配布資料

- 平成25年度 第3回泡瀬地区環境利用学習推進連絡会会次第
- 資料1. H25年度 第2回泡瀬地区環境利用学習推進連絡会議事録（議事要約）
- 資料2. 教材（紙芝居）制作について
- 資料3. H26年度 泡瀬地区環境利用学習推進連絡会の流れ（イメージ）



配付資料2 ※決定事項：配布資料2の通り、制作を進めます。

教材（紙芝居）制作について

紙芝居テーマ：泡瀬干潟で観察できる生き物について

目的：紙芝居を通して、泡瀬干潟に関心を持ってもらい、より泡瀬干潟について理解し、知ってもらうため、まずは泡瀬の海辺歩きをする人たちを増やすことを目的に、紙芝居制作を展開します。

ストーリー：イラスト執筆担当と調整し、上記テーマに沿った形で作成（現時点では概要のみ）

枚数：15～20枚程度、読み聞かせ時間10～20分

対象：小学校低学年（1～3学年）

使用方法：沖縄市内の小学校や関連教育施設などに配布して、泡瀬干潟について、より関心を持ってもらう。本紙芝居は、主に小学校での子供たちへの読み聞かせで利用し、沖縄市東部地域の自然環境として、海（泡瀬干潟）について学習し、実際に干潟観察会を行っていくうえでの一助とします。

紙芝居制作

印刷と配付について

- ・印刷まで、やるのですか。
⇒（事務局）小学校、教育関連施設への配付の必要部数まで含めて、印刷を考えています。
- ・児童館も含めての配付ですか。
⇒（事務局）要望があれば、配付したい。

制作者について

- ・イラスト執筆者って、どうやって選ぶのですか。泡瀬干潟のイラスト展や観察会を開催し、そこから作品を選出するというのはどうか。絵本作りについての思い、みだいな形で、何か書いてもらって、何かあればいいのですよね。だとすると、絵画展みたいなもので、それを外のイベントで展示も出来るし、発表の場として使ってくださいとか出来るし、あとは絵本作りに対する思いみだいのを少し書いてもらって、そこから選ぶとか、それは、そついうのをやりたい人がいるかということになります。
⇒（事務局）一般公募含め、現在、検討中です。

各委員意見 ・建築・設計の場合はですね、コンペとか課題を作ってですね、審査員を何名か選んで、そんな感じで、同じ課題でも人によって、いろいろと捉え方が違いますので、いい建物の設計が出てきたりしますね。ただ、ちょっと賞金が必要になります。でも、紙芝居でしたら、ちょっとした物でいいのではないのでしょうか。

・美術系の人に聞いたら、若い子たちはやってみたい、伝えたいという気持ちを持っている。作家の琴線に触れたら、お金以上の物には作ってくれるとは絶対に思うので、まずは、絶対やります、お願いします、というのではなくて、ちょっとリサーチしたいので、いう形でお話を聞いてみるのでもいいのかなと思います。

・環境コンサル以外では、教育関係企業（CMやら美術品関連）のコンサルなどが、専属のイラストレーターをいっぱい持っていたりとかして、そういうところに依頼すれば、多分、要望を言って、とりあえずは出来ないことではないと思います。要望を伝える時には、ここで話していたような思いがちゃんとコンサルに通じるようにしてもらえれば、嬉しいです。

- ・この会は絵本や紙芝居を作る委員会ではないので、そういうものが欲しいとって、何か方針とかで作ってもらえればいいと思っています。別にもう、作るというのが決まってしまうと、最初の時の要望では、絵本なり紙芝居なりあればいいな、というところが重要なところでした。次回、来年度にやるのであれば、来年度の話になるとは思いますが、他にもやらなければいけないことって、結構あると思うのです。必ずしも、僕らがこの委員会で、紙芝居の事ばかり話すのはどうなのかと思っているのです。ここにいる連絡会のメンバーとかが、紙芝居制作にどれ位、関わるのか、そういうのがちょっと問題になると思います。

⇒（事務局）我々の取り組みの一つとして、紙芝居作りは当然、それはやっていきたい。ただ、この連絡会は連絡会、別だとは思っています。この連絡会に、何らかの責任をとってもらって、ということは考えてはいないので、それも含めて、まだ我々の内部で少しづつめなければならぬことが残されていることは確かです。来年の始めに、こういったことで決めて取り組んでいきますという手法の報告が出来ればと思っています。

制作者後の仕組み作りについて

- ・（事務局）沖縄市内での読み聞かせ実践している先生方へのヒアリング結果について、一部報告。

各委員意見 ・作ったあとに、使うことをちゃんと想定して、始めからやってほしいなと思うのですけれども、読み聞かせの人達と一緒に干潟に行ってみるとか、そういうところの部分とかをしっかりと予算に組み込んで欲しい。読み聞かせの方々のネットワーク、そういうのとか、使うためのワークショップなど、そういうのをしっかりとやったらいいのではないかと思います。

・何となく気になるのは、教育委員会って、部局が違うところが作った物であると、あまり使わない 傾向があって、例えば結構、副読本で使えるかなと思って、自分達がやっていない違うところが作ると、そういうのって意外と使わないというイメージがとて強い。出来た物に教育委員会の名前も入るのか、というのが多分、大きいのかなと思います。

・確かに、今、先生がおっしゃるように、そういうことはあります。いろんな団体から学校の方には、これを是非、使ってくださいと。これを全部、使ったら、授業が全然、終わらないということになります。今のことですが、泡瀬干潟のそういう風な啓発啓蒙、そういった物に関しては、3年生4年生は社会科の副読本で、私達の沖縄市ということで、自分達の地域を知るということで、副読本を作成して、それを使って、勉強しているのですけれども、この副読本の中に、東部（比屋根・高原）の地域を少しまとめたものもあります。そういう中で、例えば、泡瀬干潟についての紙芝居もあります、これも利用してみてください、というのがありますが、あるいは紙芝居も見てもらいたいというのがありますが、先生方は紙芝居もあるし、それも一応見せてやってみようかな、ということになると思います。

⇒（事務局）報告書（泡瀬地区環境学習用教材）を学校に配付し、その後の活用状況調査を実施しています。まだ途中ですが、実際に今、活用しているという話を聞いています。仮に紙芝居制作後は、配付するだけではなくて、フォローはしていきたいと考えています。しかし、具体的に仕組みまで作れるかどうかというのは、今はまだ難しいとは思っています。

観察会などについて

・今年度は、この事業で紙芝居とか以外に、こういったことを取り組んでいるのですか。

⇒（事務局）今年度は、現地把案内するのは当然にずっとやってきています。現在は、主に要望のあった東部地域の小学校対象で実施しています。泡瀬干潟から遠い学校は、学校一干潟間の移動手段の確保が課題となっています。泡瀬小学校は2年生と5年生、比屋根小学校が3年生。それと出前講座。その学年は全てを案内しています。教育研究所もすだち学級の子供達を案内しています。それから報告書として、これまでの教材資料を各学校に配付して、それからカニのパンフレット、これは昨年からのいろいろと意見をいただいたパンフレット、ああいっただけで初めて作って、配付しています。

各委員意見 ・何か、こういったパンフレットは、いろいろなところであると思いますが、使う仕組み作りをしないと、多分、作っても放置されて、あまり意味がなくなってしまいます。実際に、何かその周知とか仕組み作りをメインに考えた方がいいと思います。例えば観察会が無理だったら、学校で出前授業も出来るのですよね。出前授業をして、こんな所があるんだよ、でも後で個別にお家に帰って、お父さんお母さんに伝えて、ということにしてくれると思うので、個別に言ってくれてもいいと思います。

・先生は、使い方を、やるという点で言うと、初任研とか10年研みたいのに、上手くかませると、その時に配るとというのは、割と効果があるかもしれない。

・初任研も10年研も、これまで、事務所の方で主催するのですけれども、春休みに今年までは3日間、10年研も初任研も、3日間して、主催したのですけれども、次年度からは、そこを少し負担を軽減するというので、2日間ずつやってください、となっています。初任研は、既にコレコレと決まっています。10年研の方は、社会体験研修ということで、職場の方に入ってもらうことになっていますので、この中では少し厳しいと思います。

⇒（事務局）そういう現状があって、なかなか学校に対する踏み込み方が難しいのかな、という状況です。今年度、配付した報告書を足掛かりにして、少し学校側に、こちら側の取り組みをもう少し示せるようにしていきたいと思っています。

今後の課題解決に向けて

・（事務局）先ほど藤田さんの方からも話がありました、この場でやらなくてはいけないことが他にもあるのではないかと、紙芝居をこの場で投げてしまうと、多分それだけで全部つぶれてしまうのかなというのは、我々も感じていて、紙芝居はまだ別な形でやる、報告はしますけれども別な形でやる。では、この場で、どうしていくのか、ということで、今は具体的なテーマは投げてはいませんが、何か先ほど、藤田さんが、やらなくてはいけないこと、とかいうお話だったと思うのですが。

各委員意見 ・環境学習なので、自然の方ではない方です。自然では、ない方をひろわないといけないのではと思います。何か、作るのとかを体験しに行きませんか。泡瀬地区の文化などについて、教材が無い場合は、それを環境プログラムにするというのは重要であると考えます。または、課外授業が難しい場合は、スタンプラリーについて、室内でも使用可能なボードゲームのようなものを検討するの面白いと思います。

・スタンプラリーなどはどうですか。3年生が、自分達の街ということで調べているのであれば、それに合わせた形のどこかで、休日を使ってのスタンプラリーとかであると、効果的なのかなと考えます。

・過去に実施したスタンプラリーについて、その時は、組織対応が出来ていませんでした。ただ、インストラクターとして説明者を各ポジションに配置して、ただ場所提供くらいに留まっています。これをどうするかという課題も残っているし、現時点で、子供達に特化した印刷物などの準備は行われていません。期成会は、郷友会の概念を持っていますので、子供達を広く取り込んだらいけないと思うのです。現時点では、極力、組織対応、育成会など個別に受けることは出来るとは思いますが、こっからのアプローチは、ほとんど行っていません。まあ、たまたま文化的な概念、子供チョンダラーだけは、ちょっと特化して、また文化的な意味で子供と認めていますけれども、基本的には子供対象に、それは行われていません。あくまでも、会員の大人の福利厚生という枠としか考えていません。参考までに、拝所という御嶽のパンフレットは、無料で制作して、もう20万部位発行したのかな、無料で渡しています。4万部くらい、4~5回、出していますので、それは地域の拝所の解説をした大人向けの資料です。あと、参考までに、社会学習ではないのですけれども、環境整備という意味で、浜降り作業2件、既に盛り込んであります。旧暦3月3日の浜降りを4月の2日の平日、それから地域の清掃業務を2週間前の3月23日ということで、会員規模200名で海岸での清掃の段取りに入っています。イメージ的には、10時集合、清掃業務が終わって、全員で会食、というように考えています。約200名です。別途、ご案内します。

・まあ、とりあえず、紙芝居が出来るなり、何なりで、教材も一応あって、あれがない、これがない、という部分は、ほぼ解決できて来たのではないのでしょうか。そろそろということになったら、後はそれをいかに使っていくということに話を少しずつ、軸足を移していくとか。泡瀬干潟を知っている人を増やすということ、一番、効率がいいのは、各年代の人達に、ある程度、強制力を持つ公教育というのが、でかいのだけれども、それだけが全てではない。例えば、就学時期を過ぎた人達をしてもいいし、とか、そういう見方を少し変えるという方向にしていけるためのツールがとりあえず紙芝居をもって、紙芝居や絵本なりをもって、だいたいそろそろというあたりに位置付けられれば、話しとしてはその次のステップを考えていけるので、いい方向になるのではないのでしょうか。

次年度（平成26年度）会議の開催予定

2014年9月1日（月） 10:00~12:00

沖縄市役所5階 建設部会議室